

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	札幌市立大学				
取 組 名 称	学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討				
取組学部等	看護学部看護学科				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22065	申請の形態	単独	取 組 期 間	3年
申請の分類	専門基礎	キャリア		成績評価	
キーワード	看護実践能力, 客観的臨床技能試験 (OSCE), 到達目標, 到達度評価, 看護教員の教育力				

### <選定理由>

本取組は、看護学を学ぶ学生の看護実践能力を高めるという視点から、OSCE（客観的臨床技能試験）を導入し、学年別の到達目標を明確にし、教育方法および客観的な評価方法のシステム化に取り組んだプログラムとして高く評価できる。特に、他の看護大学への波及効果が大きいという観点から見て、この取組の目的を達成することは大きな意義を有するものである。また、大学がこの取組の意義を高く位置づけ、これまでの実績として評価システムを積極的に整備しており、今後の展開について具体的な計画を立てていることなど、取組の実現性についても高く評価できる。

ただし、「育てる OSCE」の特徴を明示し、学生の到達度の評価方法、模擬患者の養成方法などを、さらに具体化し改善していくことが望まれる。取組実施に当たっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要

看護学基礎教育において看護実践能力の育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標や看護技術項目の卒業時到達度が国などの関係機関から次々と提示されている。これは、卒業時の能力と医療現場や社会が求める看護師の能力にギャップを生じていることが大きな要因である。現在の看護学基礎教育は、認知領域（知識）、精神運動領域（技能）と情意領域（権利擁護、態度、倫理観など）を統合した教授法によって実施されている。しかし、その評価は個々の専門領域単位で行われているため、学生個々の看護実践能力を形成的にあるいは、卒業時の到達度を客観的に評価している看護系大学は極めて少ない。

本学は、平成18年度に開学し、専門領域の科目は概論（講義）、援助論と技術論（演習）、臨床実習という講義→演習→実習の流れを基本軸としたカリキュラム構築を特徴としている。加えて市民（模擬患者）の参加による演習を全学年に導入し、早期から対人関係能力の育成を重視した教育を行ってきた。専門領域毎に修得した看護技術の有機的統合を図るために近年、医療系教育で臨床技能を適正に評価するための方法として有効とされている客観的臨床技能試験（OSCE; Objective Structured Clinical Examination）を用いた到達度評価の導入に着手したところである。看護実践能力を評価する試験としてOSCEを導入している看護系大学は少なく、試験の妥当性や評価の客観性については十分議論がなされていない。

そこで本取組では4年間で修得する看護技術内容、到達度及び評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含んだ到達度評価としてOSCEを用いて学年毎に評価する。その結果をもとに教授法やシラバスを見直し、必要なFD研修を企画しながら、教育実践を蓄積し、看護教員の教育力を向上させていく。このように全教員参画型で行われる本取組は、客観的成績評価を目的としたOSCEを志向するだけではなく、看護実践能力を育成することに主眼をおいた「育てるOSCE」への挑戦である。学年別到達目標を提示し全学年にOSCEを導入することによって、学生の主体的な学修意欲を育み看護実践能力を向上させるとともに、教員は自分の専門領域以外のOSCE課題に参画することによって、教員の実践力が向上し、互いの教育内容が有機的に連携する効果をねらう。また、学生は卒業時まで修得した看護実践能力が明確に示されるため、将来、実践の場でどのようなキャリアを積み上げていくのかがより具体的になり、効果的な自己研鑽のもとキャリアアップが可能となる。

